



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/58  
即時解禁  
2012年2月26日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

## クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による G20 メキシコシティ閣僚級会合に関する声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、メキシコシティで開かれていた主要20ヶ国・地域グループ財務大臣・中央銀行総裁会議の閉会后、以下の声明を発表した。

「フェリペ・カルデロン大統領、ホセ・アントニオ・メアデ財務大臣、およびアグスティン・カルステンス・メキシコ中央銀行総裁をはじめ、本会議を開催したメキシコ当局に感謝の意を表する。

我々は2日間に渡り、世界経済が抱える様々な課題について意見交換を行い、今後取るべき手段および措置について協議を重ねた。数ヶ月前に明らかに存在していた世界経済の回復路線からの逸脱の危険性は、欧州中央銀行 (ECB) などによる強力な政策措置、ユーロ圏のガバナンスの強化、およびイタリア、スペイン、ギリシャなどの国々による改革と調整により回避されている。また、高頻度指標は、主に米国における経済活動の拡大を示している。

しかし、世界経済は危険水域を脱したわけではなく、G20各国は、引き続き脆弱な金融システム、高水準にある公的および民間債務、世界レベルでの原油価格の上昇といったことから今後生じ得るショックに対する頑健性を、早急に強化しなければならない。また、失業率は多くの国で依然として高く同様に懸念事項となっている。

このようななか、我々は、新たなショックの回避と世界の信認の回復に向け、IMFの財源の拡充を含めた、より強力な世界レベルの防火壁 (ファイアウォール) の構築についても話し合った。我々は、IMFの融資能力の5,000億ドルの拡大を提案しているが、同時に、欧州規模においても同じく信用に足る、質が高く適切な規模の防

火壁の構築が必要である。私は、G20がこのプロセスの重要性を再確認したことに勇気付けられた。3月に予定されているユーロ圏の国々による支援制度の再評価をもって、具体的な措置が決定されることになろう。一方、IMFの財源強化については、加盟国からの借入取極およびノート・パーチェス・アグリーメント（債券購入契約）により実現可能と広く合意されるなど、技術的な面では進捗があった。IMFはこのモデルを活用した経験があることから、その迅速性を理解している。また、リスク緩和の面でも、一層の技術面での作業が不可欠である。これまでと同様、健全な経済政策プログラムおよび強力なモニタリングが、IMF財源の主要なセーフガードとしての機能を果たすことは明らかだが、IMF理事会は、今後他のリスク緩和策についても評価を行うことになろう。以上に加え、私は2010年のクォータ改革の完了に向けたG20の支援を歓迎するとともに、各国がこの重要な合意の実現に必要な措置を早急に批准することを期待する。

4月のワシントンでの国際通貨金融委員会（IMFC）の春季会合、ほぼ時期を同じくして行われる予定の次回のG20閣僚級会合、および6月のG20首脳会合で、本日協議された重要な課題の多くが再び話し合われる。その時まで、世界成長の回復に向けた取り組みを継続することが肝要である」